

1 派遣期日 令和5年11月1日（水）

2 派遣先 福島大学附属中学校
福島県福島市浜田町12番26号
<https://sites.google.com/ajh.fukushima-u.ac.jp/index/>

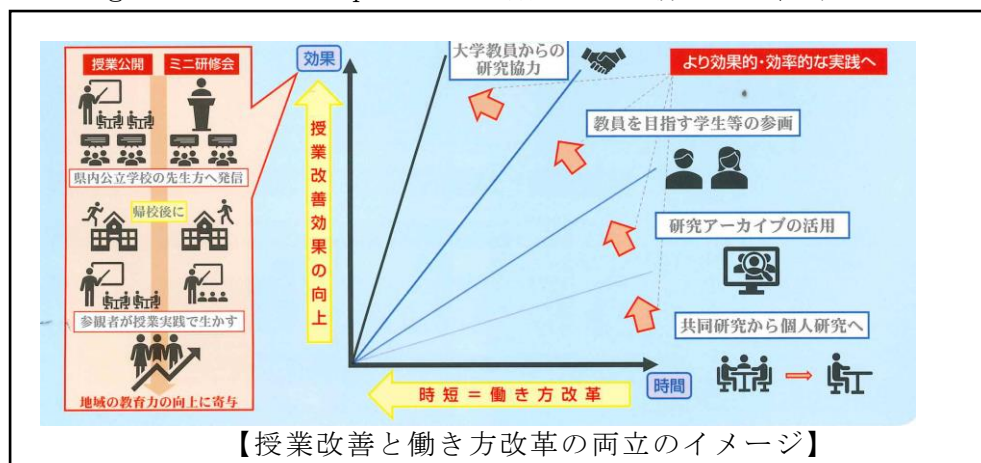
3 研修内容

(1) 視察校の取組について

福島大学附属中学校では研究主題に「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」を掲げている。学校全体の共同研究だけでなく、附属中学校の特性を活かし、大学教員から研究協力をもらい、教科、個人ごとに研究を進めたり、学生ボランティアを受け入れ、授業支援や教材作りを行ったりしている。過去の研究紀要を電子化し、校内ネットワークにアーカイブし、授業研究を効率的に行えるようにもしている。

また、副題として「授業改善と働き方改革の両立」を掲げている。主な取組として

- ・授業公開の時期や内容を実態や授業進度に合わせて設定する。
- ・部活動も含めて勤務時間内に終わるような日課の見直し。
- ・部活動指導員と連携した部活動運営。
- ・Google Workspaceを活用した公務のDX化等があげられた。



(2) 研修の内容

① 授業参観

ア 第1学年 データの分析と活用

P P D A Cサイクルを重視した授業で、「図書室の貸し出し数が少ない。」という日常的な課題（Problem）から収集するデータを想定・計画（Plan）し、実際にデータを収集（Data）、分析（Action）し、結論づける（Conclusion）という一連の流れで単元計画が練られていた。さらに、本授業ではP P D A Cサイクルの2周目として「図書室を活性化するためには」というさらなる問題を設定し、どのような調査をすれば良いかについて考えを深めていた。

生徒はアプリケーションを活用しデータを収集、考察、共有を行うことができていた。また、P P D A Cサイクルの2周目を行う意義を理解しており、生徒の学習状況や学年、部活動との関連を予想し、新たにデータを収集する際の対象や分類を考え、話し合うことができていた。

イ 第3学年 標本調査

第1学年の授業公開同様P P D A Cサイクルを重視した授業内容であった。学校全体で制服通学カバンについての見直しを行っており、「通学用カバンが重い。」とい

うテーマを授業で取り上げていた。実際に廊下に量りを用意し、実際のカバンの重さを計測し、データを収集したことで、身近な内容を統計的に捉え、批判的に考察することができていた。本時ではさらにP P D A Cサイクルの2周目として、集めたデータは本当に無作為に抽出されているのか、データの大きさが適切なのか、分析結果が正確なのかなどを考えた。そしてデータの収集方法や範囲などを再検討し、新たに計画を立てた。



② 研究協議

本時の授業についての研究協議が授業者、参観者、指導者で行われた。データの活用の分野は年度末に扱われることが多くなかなか授業研究を行うことがないため、非常に有意義な時間であった。

明確な解法や答えがあるわけでは無い内容であったため、生徒によっては、数学的な見方や考察につながらないような方向に進んでしまう生徒もいた。課題の投げかけ方を考えたり、話し合いの方向性をしっかり持たせたりすることが必要であると議論した。

また、日常的な課題を扱うことは大切であるが、天気によって左右される、時間によって左右されるなど、考慮すべき点が多くなってしまうため、ある程度の理想化や、条件を限定することも必要であると話し合った。

③ 指導講話

ア 福島大学教授 森本 明先生より

P P D C Aサイクルを2周行うことで、最初の分析から見えなかったものが見えるようになったり、1周目で出した結論が妥当だったのかを判断したりすることができるため非常に有効である。また、関係を吟味したり予測したりして、対話を通して深い学びにつなげていきたいとお話をいただいた。

イ 福島県庁義務教育課 指導主事 佐藤 盛俊先生より

他人が出した結論を批判的に捉えるだけでなく、自分が立てた計画や考えを批判することも大切である、という言葉が特に印象に残った。

中央値、最頻値などを求めるだけでなく、考察し結論づけることが大切であると改めて感じる事ができた。

4 感想

- (1) 生徒も教師も電子黒板や1人1台端末を日常的に活用していることが授業の様子から伺うことができた。また、「SGRAPA」という標本調査に特化した初めて聞くアプリもあったため、非常に参考になった。本市も同様の環境が整っているため、日常的に活用することでよりよい使い方を考え、生徒に還元していきたい。
- (2) 授業公開の他にも、ビブリオバトルや自由研究、総合的な学習の時間の発表等生徒が活躍する姿、研究協議で先生方が熱心に議論を重ねる姿に学ぶところがたくさんあった。今後もひとつひとつの研修を大切に日々研鑽を積んでいきたい。